

令和4年3月31日 14時00分
資料配布 近畿地方整備局

国際物流戦略チーム「今後の取組」を変更しました

～3月23日 第18回本部会合 開催報告～

国際物流の効率化を通じた関西経済の活性化を目指し、全国に先駆け産学官の連携のもと設置された「国際物流戦略チーム」（現在61機関が参加。事務局は国土交通省及び関西経済連合会。）について、第18回本部会合を3月23日に開催しました。

当該会合で、国際物流戦略チーム「今後の取組」が変更されました。

○経緯

- ・国際物流戦略チームでは、我が国の国際物流を巡る環境変化に的確に対応するため、今後取り組むべき内容を「今後の取組」として取りまとめており、必要に応じて適宜変更を行うこととしています。
- ・昨年度の本部会合において、今年度「今後の取組」を変更することが決定されたことを踏まえ、第33・34回幹事会を開催し、「今後の取組」の変更に向けて議論して参りました。
- ・今般、令和4年3月23日に開催された国際物流戦略チーム第18回本部会合において、Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築等を反映した「今後の取組」変更案が了承されました。

○変更後の「今後の取組」本文

第18回本部会合の資料からご覧ください <http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kbutsuryu/top.html>

○「今後の取組」の変更ポイント（別添）

- ・新型コロナウイルスの影響等によるグローバルサプライチェーンの混乱を踏まえ、強靱で持続可能な国際物流ネットワークの構築に向けて以下の4つのポイントを、国際物流戦略チームの当面の重点課題としました。
 - ① Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築
 - ② 崩れないグローバルコールドチェーンの構築
 - ③ 大阪・関西万博に向けた取組の推進
 - ④ 国際物流の脱炭素化(カーボンニュートラル)の推進

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、神戸海運記者クラブ
神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ、神戸経済記者クラブ
港湾新聞社、マリタイムデーリーニュース社、海事プレス、港湾空港タイムス

<問合せ先> 近畿地方整備局 港湾空港部
港湾高度利用調整官 ^{とみた あきお} 富田 晃生（内線6454）
クルーズ振興・港湾物流企画室長 ^{おおえ よしひと} 大江 吉仁（内線6449）
TEL:078-391-3102(直通) FAX:078-325-8288

～「今後の取組」を変更～

新型コロナウイルスの影響等によるグローバルサプライチェーンの混乱を踏まえ、

強靱で持続可能な国際物流ネットワークの構築に向けて

以下の4つのポイントを、**国際物流戦略チームの当面の重点課題**とします。



1. Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築

- 昨今の激甚化・頻発化する災害や新型コロナウイルス感染症が国際物流に与えた影響から、**非常時にも機能する国際物流ネットワークの構築**が一層重視されています。**物流機能を維持するための防災・減災対策に取り組む**他、国際海上コンテナ輸送の多方面・多頻度の直航サービスを充実させ、我が国立地企業のサプライチェーンの強靱化に貢献する**国際コンテナ戦略港湾政策のさらなる深化**を目指します。
- Withコロナ時代に求められる非接触・非対面型の効率的なデジタル物流システムへの転換に向け、民間事業者間の港湾物流手続を電子化する**サイバーポート(物流分野)の普及**や、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を目的とした**CONPAS(Container Fast Pass)の導入**を目指します。

2. 崩れないグローバルコールドチェーンの構築

- 農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする政府目標の達成に貢献するため、「**産直港湾**※」制度を活用して**小口貨物の積替円滑化施設**や**リーファーコンテナ蔵置時の電源供給設備の整備**を支援し、**コールドチェーンの強化**に取り組みます。
※ 農林水産物・食品の輸出处が我が国港湾からの直航サービスを活用した輸出行う拠点となる港湾
- 新型コロナウイルスワクチン等の輸入が増加し、高品質な医薬品物流の実現への要請が高まる中、**医薬品物流に係る国際認証の取得等**に取り組みます。

3. 大阪・関西万博に向けた取組の推進

- 2025年開催の大阪・関西万博の会場となる大阪港夢洲地区及びその周辺地域における**円滑な港湾物流**を支えるため、周辺道路の拡幅や立体交差化、コンテナターミナルの物流機能強化等の**インフラ整備**に取り組みます。
- 港湾関係者や物流事業者、その他関係機関との連携により、**大阪・関西万博の開催に向けた協力体制を構築**し、**物流交通対策を通じた交通円滑化**を目指します。

4. 国際物流の脱炭素化(カーボンニュートラル)の推進

- 我が国の輸出入貨物の99.6%を取り扱い、多くの産業が立地する港湾及び臨海部における**脱炭素化**を通じて、**環境に優しく持続可能な国際物流の実現**を目指します。
- 脱炭素化に配慮した港湾・空港機能の高度化等を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする**カーボンニュートラルポート(CNP)を形成**する等、新たに**環境価値を付加**することで**世界から選ばれる港湾・空港**を目指します。